

見えかくる、湖のけしき、見れどもあかず。高き處は天候の變化定なきならひなるをけふこそたしかめ得たれ、と感心する人あり。たえず見ゆるより見えかくれすることうれしけれ、とよろこぶ人あり。

聞半ばからにて底倉なるやどりにかへりぬ。
箱根山頂の蘆湖、おのれは雨中にこれを見たり。
其壯快なりしこと今もなほ忘るゝ能はず。雲霧深かりしわたりを思ひてこせば涼風今も起ることす。
(終)

公徳唱歌（其二）

學校の詩人

かけくる車走る人
つとむる人の勇ましく
道は遊の場所ならず
道行く人を妨げて

重荷を引ける牛や馬

繁華の土地の賑はしき

客の乗り降り忙はし

元箱根をいで、かへりちに向ふほどくだりなれば
思の外に早し。雨やうく晴れてあたりさだかに

見え来る。の瀆りし時にはかゝる山もありしか、
かゝる池もありしか、など打見まはすほどに一時

老人婦人子供には
先を譲りて助くべく

われまんかちに争ふな
るゝ水の清ければ
淺瀬に入りて魚ども
水をきたなくする勿れ
取りて除けよ人のため

飲水にする家もあり
淀にふよきならふにも
汚きものゝもしあらば

蛙の解剖

るすゐ

鬼

思の淵に身を沈め

はかなき者よ今日は

清明しける汝が身の
歸らぬ道に一人旅

蛙

罪なき者をむざゝと
殺さば殺せ思ひきや
此世に鬼の在んとは

鬼

同じ此世の生ものを
道しるべぞと諦めて

殺すも已が出世の
死んてくれかしやよや君

死ぬる命はおしまねど
歸り遅しとまつの戸よ

手足を雨にすべく間も
残る母あり妹あり

鬼

心の鬼にあらぬ身の

すいろに落つる涙川

汝が身の上へく時は
とむる闘なし兩の眼に

駒塲に茂き萩の露

生かすは御身の爲さらず
いざはね給へいざ給へ

鬼

何れ短かきわが命

道理にわかき汝が身を
母と妹を大切に

殺すは人の道ならじ
樂しく世をば送れかし